

表 2-2⁹⁾

		進出件数			1993年～97年伸び率
		1993年	1996年	1997年	
直轄地	北京市	253	746	875	3.46%
	天津市	118	664	695	5.89%
	上海市	404	1,797	2,019	4.99%
沿海	江蘇省	158	1,015	1,129	7.15%
	浙江省	54	346	513	9.50%
	山東省	83	804	956	11.52%
	遼寧省	698	1,560	1,602	2.29%
	広東省	307	688	761	2.48%
内陸部	湖北省	11	138	143	13.00%
	河南省	11	130	135	12.27%
	四川省	19	108	118	6.21%

減りつつある華南を避け、それ以外の地域に目を向け出していると言えるようだ。表 2-2 は、外資の地域別進出件数及びその伸び率を表しているが、その上位に、華南地域の省である広東省は入っていない。また図 2-3 と図 2-4 では、現在ま

での対中投資の中心が完全に沿海部であったということ、そして各経済圏別の投資状況の流れを見て欲しい。広東省を含む華南地域が、外資の全投資での割合を低下させているということがわかる。

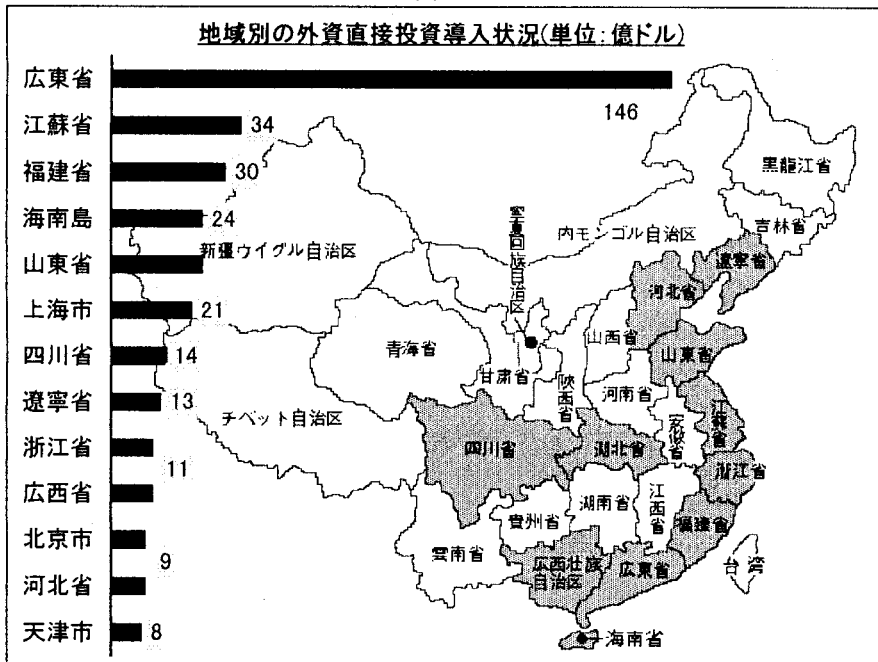
③ 進出形態

80年代後半から中国側のより積極的な対外開放と外貨不足の問題から、独資形態、つまり100%外資企業が認められるようになった。その100%外資の形態での進出も伸びてはいるが、技術移転の面から合弁企業形態を取る外資企業がやはり多い(図 2-5)。日本の製造業を考えると、約7割は合弁形態であるという。日本企業は、中国的・華僑的な商法を基本的に理解できないという概念もあり、紳士協定と言われ、信頼関係が大きく影響す

表 2-3¹⁰⁾

日本企業の対中直接投資規模(件数当たり万ドル)						
年 度	1990	1991	1992	1993	1994	1995
規 模	91	92	119	134	174	245

図 2-3



資料出所：梶田 幸雄・馬 成三『対中投資のすべてがわかる事典』日本実業出版社、1996年のデータより作成。

注：1992年までの各地企業登録ベース。また上位14ヶ所のうちの省は背景のマーク。

9) 資料出所：稲垣 清『2時間でわかる 図解 中国のしくみ』中経出版、1997年、P. 235。

10) ジェトロ『中国経済』1997年2月号のデータより作成。